

会員だより

秋の紅葉を楽しむ 大門寺

国道一七一号の西河原交差点から府道茨木亀岡線を北上すること約 5 Km でゴルフ場「あいがわ C」への道を入る。大門寺への案内板に沿



って進む。木立ちの中に静かで紅葉のすばらしい大門寺がある。紅葉の大きなドームで覆われた参道を進むと山門へ。山門をくぐると又、趣きのある紅葉と静寂の世界です。大門寺は真言宗仁和寺の末寺で、七十七一年(宝亀二年)に開成皇子が霊地を求めてこの地に來た折

りに、多聞天の化身にあつたことから草堂を建てたのが始まりだといわれています。

また、本尊である「木造聖如意輪觀世音菩薩坐像」は、当時の開成皇子が香木に彫刻したものであると伝えられています。「木造四天王立像」と共に、国の重要文化財に指定されています。

山門から外を見ると紅葉のカーテンでおおわれています。

大門寺は、春は梅や新緑、秋には見事な紅葉と四季折々に姿を変える静かな境内です。阿武山の絶景とも向かい合って美しく、と

ても素晴らしい。

現在、茨木亀岡線は、安威川ダム建設のためかダンプ街道で歩行が非常に危険です。大門寺の近くを 2 車線の車道を建設中で、この静かな環境がなくなるのではないかと非常に心配です。 S・O

甘辛チャンネル

高齢者の居場所

十月十日付けの「福祉たかつき」の記事によると現在百才の方は、男子 2 名、女性 20 名とのこと。二人併せて百九十五才のお元氣なご夫婦もいらつしやる。

これは、戦後 62 年、戦争も起きず、目覚ましい医学の進歩と、誰もが持つていける強い精神力ではないか。聖路加国際病院理事長の日野原重明氏は、常々人それぞれ如何に生きるかとおっしゃる。

「生活している中味の心の温かさと優しさである。と」

勿論長寿の秘訣は日頃から自身の健康維持と病を得てもいかに対処するか日頃から心がける事が最も大切であろう。

近頃、老健施設が沢山出来て要介護、要看護、要支援の認定の方が利用されて

通所或いは入居、そしてショートステイ等利用者はそれぞれ専門家の指導の元で利用出来る。

筆者はこの夏 JR 青春切符を利用して一人旅を楽しんだ。数年前は車窓から〇〇塾の看板が沢山見えた。この夏は地方ののんびりした田園風景の中にとつてもかわいい建物が見え、それぞれかわいい名前

の付いた老健施設である。「へえー、こんな静かな地方でも？老健施設か？」とおどろき。

「若者が都市に出て高齢者だけがとどまり、先祖代々の家を守り続けて、要介護、要看護認定を受け施設を利用されているのか？」と。

高槻にも沢山の老健施設が出来ているし、今後も増えるであろう。街の中にもご自宅に近い所。車の音、電車の音、人々の話し声、子供達の声等を身近に感じて日々施設を利用され過ぎている。

「高齢者は静かな所で」と言う考えはもう終わり。お元氣な時と変わらぬ環境でいろんな方達と交流

し、歌ったり、おしゃべりしたり、縫い物をしたり、踊ったり、幼児に古くから伝わる遊びを教えたり、動物と接したり等々当に生き方上手。でも静かな場所が良いと思われる方達の意志を尊重する事も忘れてはならない。

追記

10月4日で満96才になられた日野原重明氏は講座で、クオリティーオブライフ(QOL)の重要性を常に語られます。

例えば、何億と言う立派な家に住んでも家族関係が希薄であればそれはとつても悲しい事。

たとえ、6畳一間に5・6人寄せ合って生きている家族、貧しくても心の通い合わせている家族の生き方の方が素晴らしい等々。なあーる程と常に聞き終って感じさせられます。

後記

VG 槻輪は十一月で、3周年を迎えました。向寒の折ですが、気持ち新たにこれからも頑張ります。 S・N

四季彩 プラカンス

(常盤山檀子：ときわさんざし 赤い実)
(橘擬：たちばなもどき オレンジ)

ばら科、Pyracantha. Fire thorn、火 (pyro) のような真っ赤な実を付け枝にはいっぱいとげ (acantha) があるところから、プラカンスの名前がついた。

5月に白い花を開き秋に真っ赤な実をつけて目立ちます。

中国名は「火棘 (かきょく)」。

11月に入ると我が家の庭木は冬支度に入りますが、プラカンスをはじめ草花達がいつせいに最後の秋を楽しむように咲き競います。

実は毒性を持つうえに苦くまづいので、鳥たちは一気に食べずに少しずつしか食べない。すると、実も少しずつあちこちにばらまかれるので、結果としては繁殖に有利となる。赤く不味い実の知恵。 T・N

